

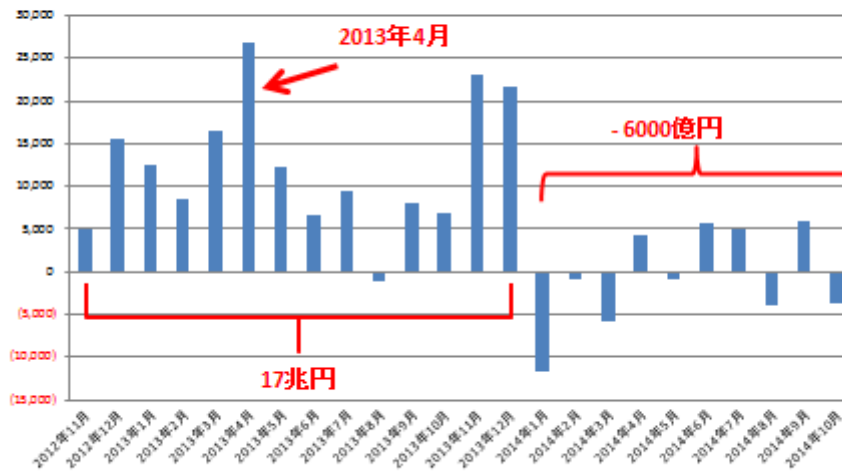
2014年11月17日
アベノミクスを見限る日

失望

増税を先送りすることは良い選択。足元の景気指標を見れば一目瞭然。財政再建原理主義者は雨が降ろうが槍が振ろうが増税すべきと言い張るかもしれないが、それは石頭。だからと言って解散する必要があったのか。果たして。疑問。意見は分かれるであろうが、これはアベノミクスの失敗と見るべき。失望を禁じ得ない。

それにしても、IR法案はどこへ消えた。女性法案はどこへ消えた。結局、アベノミクスに乗せられて優先されたのは秘密保護法、集団的自衛権。ここで一旦ピリオドとなると、外国人投資家はどう思うだろうか。それでもまだアベノミクスを信じるだろうか。

投資主体別売買動向: 外国人(3市場: 億円)



我が国の民主主義とは

振り返ってみれば解散・総選挙ばかりしている国だ。結局選ばれた議員では国会で何も決まらない。話し合いが出来ないのだ。小学生じゃあるまいし。何かもめごとがあるたびに解散・総選挙では無駄が多すぎる。それが停滞の原因になっていたことがまだわかっていない。せっかくネジレが解消されても、これでは何の進歩もない。何のために選ばれたのか、何も伝わっていない。

それが政治だ、と言う人もいるだろう。ならば、それが日本の政治か、と返したい。そんな国は他にどこにある？

結局望んでいるのは一党独裁の形なのか。しかしそれでは東南アジアの国々と同じではないか。もっと極論を言えば中国と同列。どうして話し合いが、議論が出来ないのか。どうして国会では個人的な中傷ばかりなのか。足の引っ張り合いばかりなのか。

まだ時間はある。解散は総理大臣の専管事項とされている。ギリギリまで考えてもらいたい。何度も繰り返す。選挙は時間の無駄だ。そんなことをしている暇はこの国にはない。それでも選挙をするのならば、それなりのコストを覚悟してもらいたい。市場も選挙も、何が起こるか分からない。

日本は名実ともに二流国に落ちるリスクがある。